

プラス成長に転じた中国経済

ポイント① 鉱工業生産は小幅加速

7月16日に発表された4-6月期の中国の実質GDP（国内総生産）は、前期比+11.5%、前年同期比+3.2%と、1-3月期のそれぞれ-10.0%、-6.8%から回復してプラス成長に転じました。6月の鉱工業生産指数も、前年同月比+4.8%と5月の同+4.4%から上昇しました。実質GDPも鉱工業生産も新型コロナウイルスの感染が拡大する前には前年比で6%程度増加していましたので、まだ正常レベルまで戻ったとは言い切れません。しかし感染が他の主要国より早く収束した中国の景気の回復には、緩やかな加速感が見られるようです。

ポイント② 前年比減が続く小売売上

一方、小売売上高は6月には前年同月比-1.8%と5月の-2.8%からマイナス幅は縮小しましたが、前年比での減少が続いています。中国全体としては感染第二波を抑え込むことができているようですが、消費者の警戒感は解消されておらず、購買意欲の回復は遅れているようです。

ポイント③ 今後の外需動向には注意

7月14日に発表された6月の中国の貿易統計によれば、輸出（米ドル建て）は前年同月比+0.5%と5月の同-3.3%から増加に転じ、輸入（米ドル建て）は同+2.7%と5月の-16.7%から大きく回復しました。輸出入の増加は、中国から見た内外の景気の回復を示唆しています。中国を最大の輸出相手とする日本の景気にとってもプラスとなりそうです。

ただ、米国や日本などでも感染第二波の様相を呈していることから、今後の景気回復がもたつく可能性もあります。中国の輸出にもブレーキがかかることも考えられ、今後の動向には注意が必要でしょう。

図1：中国の実質GDPと鉱工業生産指数

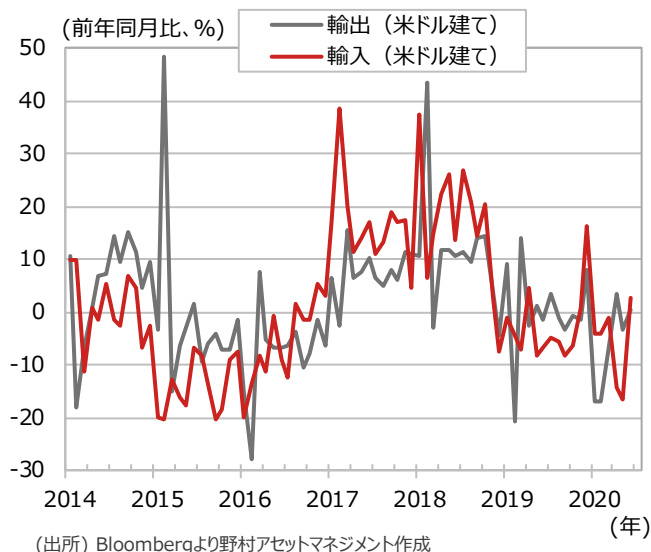
期間：実質GDP 2006年1-3月期～2020年4-6月期、四半期
鉱工業生産指数 2006年1月～2020年6月、月次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図2：中国の輸出・輸入

期間：2014年1月～2020年6月、月次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

7月30日 米GDP（4-6月期、速報値）
7月31日 中国PMI（購買担当者景気指数、7月）

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。